

しいなひろみ  楽しいな 通信予算総括質問のご報告(令和2年3月23日)要約  
以下4項目 6つの質問をいたしました。

## 1. 高齢者が認知症になっても安心して暮らせるまち作りについて

## ①QRコード付きシールの早急な導入を！

迷子になり警察に保護される高齢者が増えており、迷子になったショックや、水分不足による脱水が原因で自分の名前や住所がわからなくなる方や認知症の方も多くいらっしゃり、身元不明者となります。

## 健康生きがい部長答弁

来年度は、第8期介護保険事業計画の策定作業を行う中で、認知症施策もさらなる充実を図っていきたくて考えておりました。徘徊探知機器の在り方につきましても早期に見通しを立てていきたくて考えております。

## しいな一言

このQRコード付きシールは、あらかじめ衣類などにつけたQRコードラベルの読み取りで、個人情報を開示することなく発見から保護、そしてご家族への引渡しまでの工程を早期解決へと導きます。高齢者がいるご家族に安心をもたらすサービスです。77自治体が導入しているのは、やはり認知症の行方不明対策は喫緊の課題だからではないでしょうか。11月の一般質問でも提言しており、早急な導入を求めます。

## ②高齢者緊急レスキュー事業

保護された身元不明の高齢者を迅速に安全な保護施設へ！

「お迎え→検診→保護施設へ」の付き添い迄、スムーズに対応する仕組みです。

## 健康生きがい部長答弁

年末年始、大型連休等の迷子高齢者の保護先は警察であるということが増え、保護も長期に及んでいる。高齢者の負担を鑑み、しかるべき施設での受入れを進める必要性については、区内の警察からも意見が寄せられています。足立区の取組みも参考に、今後検討していきたくて思います。在宅患者急変時後方支援病床確保事業、そちらを使って保護を行ったらいいのではという提案もありますが、ほぼ100%近い稼働状況です。高齢者のシェルター事業が既にあるので新たなスキームを早急に検討したいと思っています。

## しいな一言

身元不明の迷子高齢者で警察に保護されるのは圧倒的に夜間帯が多い。問題は二点あります。一つめは閉庁後や、土日・祭日は区の担当者に引き取り保護の連絡までに時間を要しています。直接連絡が取れる仕組みが必須です。足立区では「高齢者緊急レスキュー事業」とし24時間高齢福祉課の担当者が2名体制で携帯電話を持ち、保護した警察と直接連絡を取るシステムが構築されています。事前に契約している福祉タクシーが、警察で保護している迷子高齢者を迎えに行き病院受診後に事前契約している福祉施設に搬送する仕組みです。二つめは保護された迷子高齢者の収容先です。本区でも在宅医療推進事業の一環として、在宅高齢者などの容体悪化時のための病床確保という事業が既にあり、年間638万5,675円の予算がつき、病院のベッドを年間にわたって確保しているので、このシステムを迷子高齢者の保護先として活用してはどうでしょうか。

## 2. 質の高い介護サービス提供のための人材確保について

## ③介護福祉士実務者研修受講料の助成金導入を！

## 健康生きがい部長答弁

周辺区では介護職員実務者研修や介護福祉士資格取得のための助成を行っている区もあります。当区は、平成27年度に国の地域人づくり事業として、単年度で実施した以外は介護関係の資格取得支援事業を行なわなかった。まず、第一歩として、介護職員の初任者研修の受講料を助成することになりました。今回は、裾野を広げることを主眼に、新たに介護職員として就労しようとしている方や区の家事援助サービススタッフ研修を終了して、訪問介護事業所で従事している方をターゲットにしておりますが、今後は、既に介護施設や事業所に従事している職員の資質を高めるような支援についても、他区の事例を参考に検討していきたくて思います。

## しいな一言

介護職員による虐待事件が後を絶ちません。質の高い介護の提供には、教育が欠かせません。令和2年度より、200万円の予算をつけ、介護職員初任者研修の資格取得のための助成金制度が始まります。この介護福祉士実務者研修の受講者にも、助成金の門戸をひらいて下さい。